【71】新河岸の河岸場跡周辺

新河岸川舟運は、川越城下で起きた寛永の大火（1638）の際に仙波東照宮の再建資材を運搬したのが始まりといわれ、川越藩主松平信綱によって整備されました。川越五河岸 ― 上・下新河岸、牛子、扇、寺尾には多くの問屋が軒を並べ、江戸と川越を結ぶ物流の一大拠点でした。現在は菜の花が満開になる季節には地域の方々によって、舟遊びのイベントが催されています。

春の舟遊び

下新河岸日枝神社・観音堂（旧観音寺）

日枝神社境内には、日枝神社と観音堂が同居しています。これは、明治３年（1870）の新河岸大火の影響から神仏分離を免れたためといわれています。元々は、蓮華院観音寺の境内に日枝神社が神仏習合思想により一体となって存在していました。しかし、後に観音寺が衰微し観音像のみ安置していたため、観音堂と呼ばれるようになり、日枝神社境内に観音堂が存在するような姿になっています。

また、境内地には、英一笑（はなぶさいっしょう・江戸時代後期の画家）による仁王像石碑や馬頭尊などがあります。

仁王像石碑

伊勢安（いせやす）

下新河岸の船問屋だった伊勢安（齋藤家）には、新河岸川舟運が盛んだったころの面影が残されています。

現在の母屋は平成 11 年（1999）に改築されたもので、明治３年(1870)４月の新河岸大火以降に再建された母屋と同様の外観を持ちます。帳場や民具類も当時を髣髴させます。奥には元禄期（1690 年代）に建てられた素麺蔵や、文政期（1820 年代）の米蔵などがあり、帆柱などの船具も残されています。

往時の面影を残す伊勢安

ふじみ野市立福岡河岸記念館

福岡河岸では享保 18 年（1733）ごろから福岡村の人々が回漕業を営み、安永２年（1773）に３軒の船問屋が幕府から公認されました。福田屋は七代仙蔵が天保２年（1831）に問屋株を借り受け、舟問屋を開業しました。記念館は福田屋の建物で、明治中期の回漕問屋の様子を再現し、文庫蔵内部の展示室では舟運と問屋の暮らしを展示しています。また、遠方からの客をもてなしたという明治 30 年代築の木造三階建の離れは公開日が限られていますが、一見の価値ありです。

中央の建物が離れ

迅速測図　川越市立博物館蔵

迅速測図（部分）

埼玉県武蔵国入間郡新河岸古市場村（復刻版）明治 14 年

陸軍参謀本部が作成した地図で、急いで作成したため迅速測図と呼ばれています。新河岸川と各河岸場が描かれ、仙波河岸から古市場・福岡河岸までの間の新河岸川の蛇行やため池の様子、また、屋敷の密集ぶりや道の様子などがうかがえます。

【72】寺尾の日枝神社

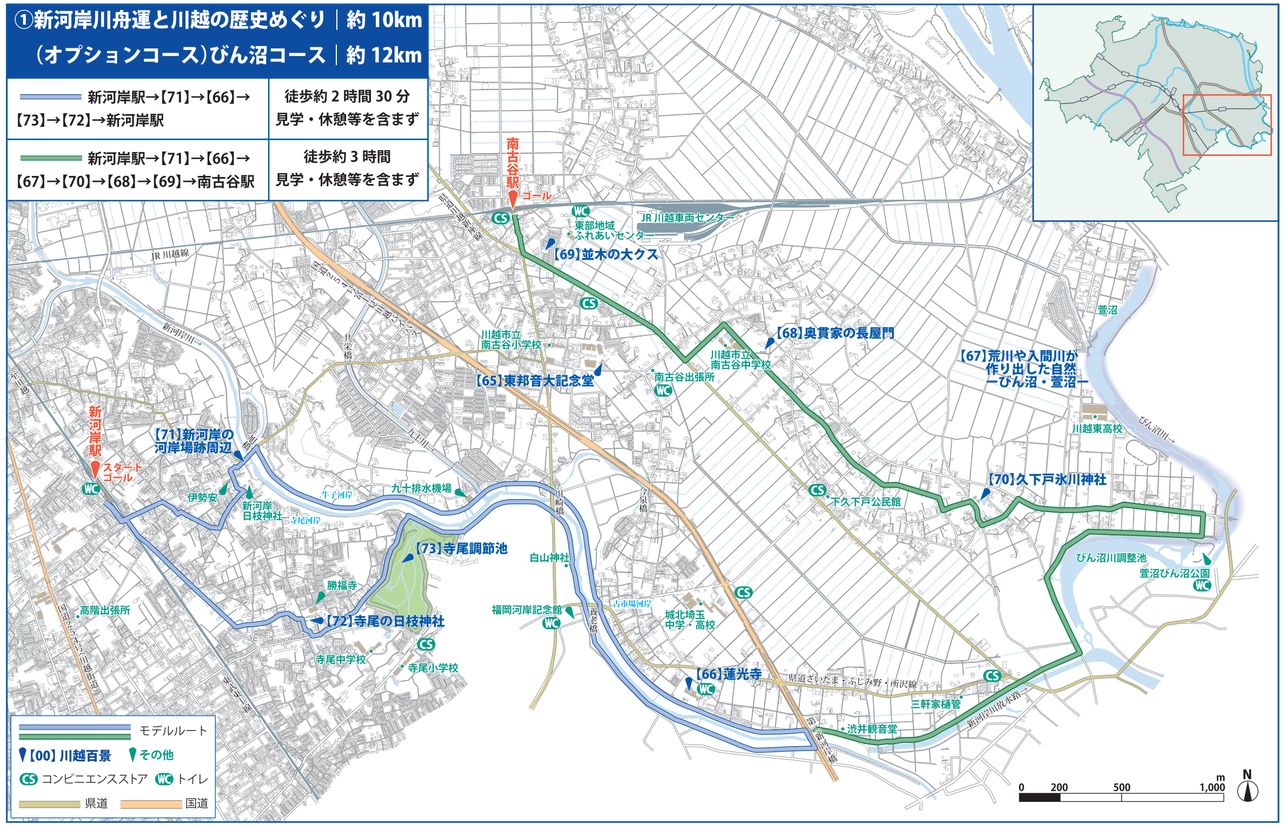
寺尾の日枝神社は、ふじみ野市との間の沖積地を一望する大地の縁辺部に南面して鎮座しています。神楽殿の背後には、寺尾城の物見の代わりをしたというマキの大木があります。寺尾城は、後北条氏の家臣諏訪右馬亮（すわうまのすけ）がいたとの説もありますが、定かではありません。神社の北側にある天台宗寺尾山蓮乗院勝福寺（しょうふくじ）は慈覚大師円仁（じかくだいしえんにん）の開創、建武元年（1334）秀海法印（しゅうかいほういん）の中興です。阿弥陀堂の脇には建長3年（1251）の銘が入った阿弥陀三尊種子板碑があり、市内では最も古い時期のものです。肉が厚く大型で、山形が際立って鋭角的などの特徴が見られます。

勝福寺

マキの大木

①新河岸川舟運と川越の歴史めぐり｜約 10km
（オプションコース）びん沼コース｜約 12km

新河岸駅→【71】→【66】→【73】→【72】→新河岸駅	徒歩約 2 時間 30 分 見学・休憩等を含まず
新河岸駅→【71】→【66】→【67】→【70】→【68】→【69】→南古谷駅	徒歩約 3 時間 見学・休憩等を含まず



【73】寺尾調節池

新河岸川舟運は、大正時代から始まった河川改修、そして、昭和６年（1931）の通船停止令をもって終わりを告げます。しかし、その後も流域では水害が続きました。

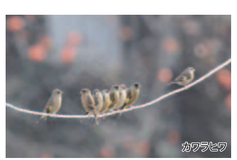
［床上・床下浸水被害］
昭和 57 年（1982）約 9,200 戸
平成　3 年（1991）約 4,000 戸
平成 10 年（1998）約 3,800 戸

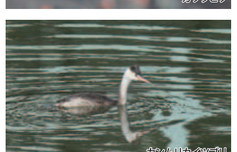
そこで設けられたのが治水対策施設の寺尾調節池です。対岸の九十排水機場とともに平成 14 年（2002）に完成、これにより水害が減りました。

今では、自然観察や野鳥観察の場としての利用はもちろん、堤防道路で散歩やジョギング、ウォーキングを楽しむ市民も多く、一年を通じて親しめる空間となりました。

計画調節量 36 万㎥、約 13ha の寺尾調節池には、現在、数十種類の生物と 90 種に迫る野鳥、約 100 種類の植物が生息し、広大で豊かな「自然の宝庫」となっています。

地元の小学生、中学生の学習の場となっているほか、地域の有志によって「調節池を愛する会」が結成され、美化・生態系保護活動に取り組んでいます。


カワラヒワ


カンムリカイツブリ

写真提供：調節池を愛する会代表 加藤和徳氏

【66】蓮光寺（れんこうじ）

曹洞宗鷲嶽山蓮光寺は、室町時代の永正年間（1504 ～ 20）の創建です。徳川家康が慶長 16 年（1611）鷹狩りの折に立ち寄り、お茶を供されたことから御朱印地七石を下付しました。総門（川越市指定有形文化財）は朱塗りの一間高麗門で、かつては新河岸川に向かって建っていたものを、河川改修に伴い現在の位置に移しました。

河川改修によって整備された新河岸川堤防上には桜が並木となり、市民の花見の場ともなっています。

緋葉の蓮光寺

新河岸川沿いから見た蓮光寺

【69】並木の大クス

並木の大クスは、幹回り６メートル、高さ 30 メートル、遠方からはまるで小山のように見える巨樹です。昭和９年（1934）に県の天然記念物に指定されました。

【65】東邦音楽大学記念堂

東邦音楽大学は、昭和９年（1934）に東京高等音楽院（現国立音楽大学の分教場として始まり、昭和 13 年（1938）に東邦音楽学校として発足しました。川越キャンパスは昭和 38 年（1963）の開設です。木造２階建ての記念堂は、昭和 13 年に文京区大塚に教員室や教室として建築されたもので、昭和 43 年（1938）に川越に移築されました。

【68】奥貫家の長屋門

久下戸（くげど）村は荒川右岸の低地に位置し、奥貫家は代々名主を務めた家です。構堀を持つ屋敷地は、約 80m 四方、長屋門もその一角にあり、間口 15 間という川越市内最大の長屋門です。五代目友山は、寛保２年（1742）に発生した大水の際、私財を投じて村人を救ったことで知られます。

【70】久下戸氷川神社

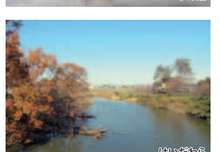
久下戸村の鎮守で、創建は明らかではありませんが、大宮氷川神社から勧請したと伝わります。本殿は朱塗りの一間社流造で 17 世紀の建築と推定されます。境内には富士塚があり、寛保２年（1742）の大水害では、その頂まで水が到達したと伝わります。また、この水害を伝えるものとして、拝殿の前には宝暦３年（1753）に菅間村と共同で奉納した燈篭があります。

【67】荒川や入間川が作り出した自然 ―びん沼、萱沼、はいだわら

かつて大きく蛇行していた荒川や入間川の流路が、細長い沼となって残りました。

びん沼川は荒川の改修以前の流路で、さいたま市との境になっています。萱沼には、萱沼びん沼公園が整備されるとともに、釣りのメッカとなっています。はいだわらは、中老袋から下老袋にかけての入間川の古い流路です。その昔、肥料として使われていた灰を運搬していた船が転覆したことからこの名がついたと伝わります。

びん沼


はいだわら